

第3回 2010年8月出発 参加者 ●黒澤 遼さん、ホスト：釜山大学校

1. 応募したきっかけ

最初のきっかけは研究室の担当教官より紹介して頂いたことです。当初は時期的に忙しく参加は難しいのではと思いましたが、海外で生活し研究するまたとない機会だと思い参加させていただきました。

ホスト先の教授は、私の研究室の教授と同じ大学出身で交流がありました。そのこともあり、連携が取りやすく研究も進めやすいということも参加動機の一つです。

2. 事前準備

参加を決めた当初は簡単な韓国語の学習や研究の準備を行う予定でしたが、学会や論文投稿など忙しく韓国語の学習は出来ませんでした。研究の準備は事前にメールでやり取りすることで、現在日本での研究について、研究テーマ、使用可能な実験装置等の確認をしました。韓国の会話は基本的に英語でしたがやはり韓国語の勉強はしておいたほうがよかったと今になって思います。

3. 現地研修

最初文化研修を行ない、韓国の伝統衣装や食事を十分に体験できました。これらの研修は事前に十分な準備をして頂いたおかげもあって、2、3日の短い研修でも内容の濃い研修ができたと思います。

研究研修は釜山で行わせていただきましたが、わからないことがあれば丁寧に教えてくれ非常に研究しやすい環境であったと思います。

4. この研修を通じて得たもの

私は行った釜山での研究は、日本で行っていた磁性ナノ粒子の研究に関連したものでした。なので、釜山で得られた実験結果は日本の研究に直接有用できる素晴らしいものでした。特に、XPS という材料表面を解析する装置で実験を行えたこと、またその実験結果の解析について学べたのがよかったと思います。研究以外では得られたものは、やはり異国の地でつながりができたということだと思います。韓国の方は、非常に親切で言葉が通じなくても仲良くな

れたと思います。今後の研究でもその関係が続けばいいなと思います。

5. 参加する人へのアドバイス

実際に行く前の不安は皆さん同じだと思います。しかし、行けば絶対に楽しめると思います。

研究のテーマは自分の日本の環境下でできないことをするのがいいのではと思いました。

言語は韓国語ができるに越したことはありません。基本は英語で話せばいいと思いますが、韓国語の単語だけでも知っていれば向こうの人も喜んでくれます。大切なことはこの貴重な研修を楽しもうという気持ちだと思います。日本では出来ないことに積極的に挑戦してみてください。

